

な た だ ら      ご ま ど う  
那 谷 寺      護 摩 堂

種 別	重要文化財 建造物
指定年月日	昭和 25 年 8 月 29 日
所 在 地	那谷町 (那谷寺)

那谷寺の護摩堂は、本堂に相對した境内西側の山腹に位置する。三間四方の正方形の建物で、正面中央には1間の向拝<sup>(1)</sup>をつけている。単層で、四方には縁を巡らせているが、高欄はつけていない。四方の壁面には、それぞれ異なる姿をした9頭の唐獅子と牡丹が浮彫りされている。また壁面の最上部には、波と菊をかたどった透かし欄間を入れ、明かり取りとしている。

内部は、正面に平安時代の智証大師<sup>ちしょうだいし</sup>作と伝わる不動明王像が安置してあり、中央には護摩壇<sup>(2)</sup>を設ける。不動明王像の背面の壁は前面金箔貼りで、側面壁には上部に鳳凰の浮彫りが、下部に唐草の浮彫りが施される。また天井は格天井で、金地に極彩色の模様が描かれている。

禅宗寺院における護摩堂は通常唐様の技法を用いるが、本件は唐様を基調としながらも和様の手法が盛りこまれ、桃山期の建築の華やかさを残している。

(1) 向拝：社殿の正面の階段の上に屋根が張り出した部分。

(2) 護摩壇：護摩を焚く炉を据える壇。

